

★最高の夏を終えて★ 選手のコメント紹介①



8月15日に14日の甲子園2回戦を終えた野球部の帰還式が本校で行われた。ここから6枚のキマグレにわたって選手と野球部3年生の、滋賀大会や甲子園のコメント、新チームへの期待などを紹介する。

1 松井拓真君

主将の松井拓真君(3-5)は滋賀大会を「春の大会で優勝してから『春夏連覇したチームはない』という記録を突破することを目標としてきた。ブレイクスルーを目標として滋賀大会に根拠を持って挑み、恐れることなく戦うことができた。勝つべくして勝てた。強い気持ちで過ごせた」と振り返った。「最後まで諦めず、最終回まで戦い抜けた。自分

たちの野球を貫けた」と甲子園について話し、青森山田戦での9回の攻撃を「勝つのは難しかったが、何とかしよう。後ろに繋いでいこうとみんな笑顔で良い雰囲気だった。負けてしまったのは悔しいが、甲子園という舞台で全員で楽しめた」と微笑んだ。

今大会のチームについて「みんなで助け合って全員野球をすることを目標とし、全員が一つになって相手に向かっていく団結力の高い良いチームだった」と顔をほころばせた。また高校野球生活を振り返って「僕自身野球がしたくて東高に入学し、甲子園を夢見続けてきた。最後の夏にキャプテンとして出場できたことは誇りに思うし、自分たちの力だけではなく、指導してくださった方々、応援してくださった方々のおかげだと思う。充実した野球生活を送れたのは色々な人のおかげなので感



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号



▲9回裏は甲子園球場全体が彦根東への応援で一杯になった。

2 條野正宗君

捕手の條野正宗君(3-7)は滋賀大会を「自分たちの思い通りの試合ができて勝てた。

謝している」と頬を緩めた。後輩へ向けて「ベンチに入った4人の2年生が中心となって活動していくと思うが、学校に残って練習していたメンバーも4人を追い越す気持ちを持ち続けて練習してほしい。チームとしても個人としてもレベルアップし、春の選抜大会に出てほしい」と熱くメッセージを送った。

楽しい試合ができたと思う」と振り返った。また甲子園全体の感想を「初戦も2回戦も相手のレベルが高く、特に青森山田高校は戦い方のレベルが高く負けてしまい、全国のレベルの高さを感じた」と話した。また青森山田戦の9回裏の攻撃について「自分が先頭打者のときに出塁しておけば得点に繋がったのではという悔しさもあるが、3塁側アルプス席だけでなくバックネット裏も東高の応援をしてくれて、まるで甲子園全体が味方のように思えて感動した」と笑顔を見せた。

今大会のチームについて「仲が良いチーム。仲の良さが野球でも守備の連携力や粘り強い打線に繋がっていると」と語気を強めた。「4年前に東高が初出場を果たし自分も東高で野球がしたいと思い入学した。僕達の代で目標を達成したうえに、4年前の成績を超えられ、新たな歴史を作れてうれしい」と高校野球生活を締めくくった。後輩へ向けて「試合に貢献してくれた増居、朝日、原功征、野寄の力のある2年生がいるので、チームを引っ張ってほしい」とエールを送った。

.....

.....

.....

.....